

第4回 何が好きですか？

生まれた時からのことを思い出してみてください。何か好きだった事はありますか？ それでは、今何が好きですか？ この好きだということが、人が何かを始めたり、実際に動くときの最も大事なことだと思えます。私は、おそらく生まれてまもなくから車が好きでした。記憶の中で車が好きではなかった事はなかったような気がします。

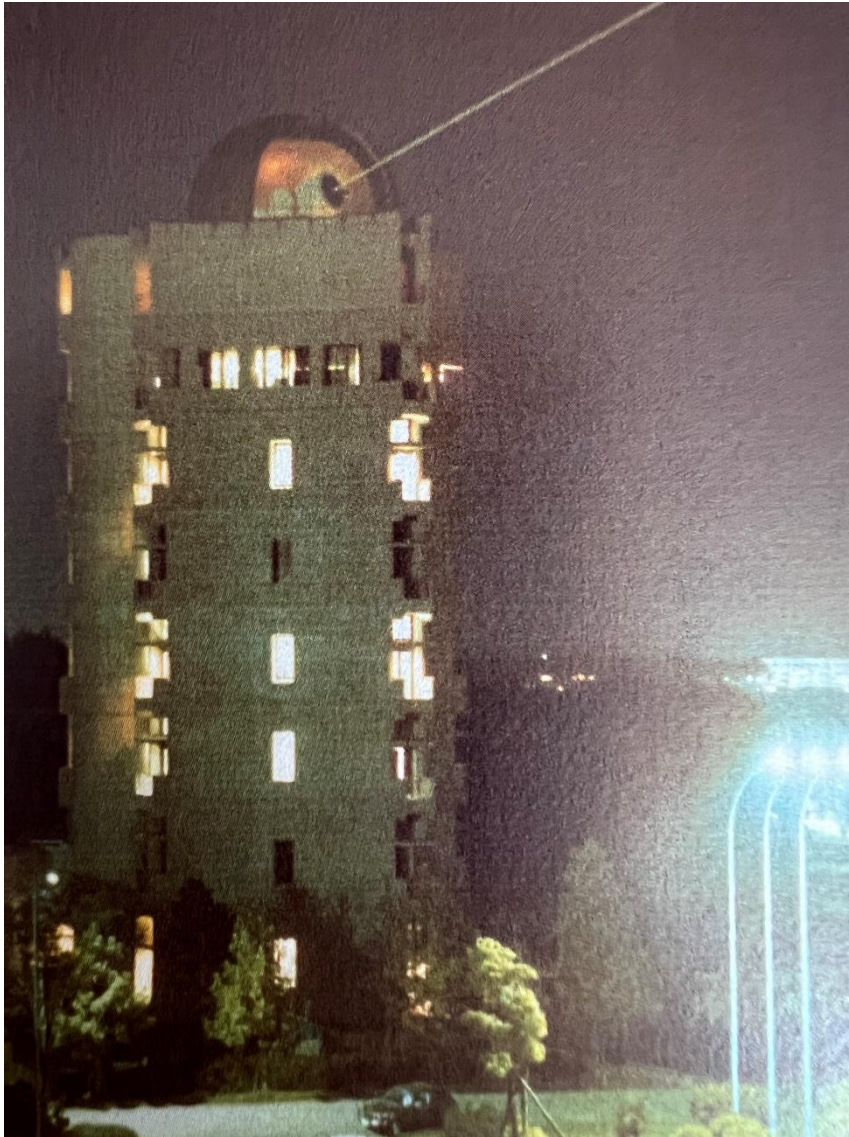
将来何になろうかと思ったこともありますよね。それは時々変わることもあったと思えますけれども、心のどこかでは好きなことがあったんじゃないかなあと思っています。高校の頃に校長先生と面談をする機会がありました。その時何がやりたいかと言う事を聞かれました。なんとなく車が好きだとは言えずに、当時多くの人々が答えたようにロケットと言いました。この頃は今よりもはるかにロケットや人工衛星などが多くの人々の関心事でした。それでそう答えてしまったと言うことです。小学校の5年生のときには、パイロットと言うことも言いました。これはやはり先生の影響で、飛行機のパイロットは、英語が必要なことのほかにたくさんの能力が必要なんだけれども、収入がともいいと言うことを言われて、自分もそうなりたかったこともありました。

車の点では何でも好きでした。トラックもバスも乗用車も全て好きでした。私の子供の頃はまだ車は多くはありませんでした。小学校の時に車を持ってあったのは、同級生の開業医の家だけでした。私の家は仙台の中でも中心から少し離れたところの少し坂を上ったところにありました。この坂を登ってくる車が時々ありました。その音が遠くから聞こえると、何をしても矢も楯もたまらず玄関を飛び出し、車を見に行っただけです。

なので、大学に入ったときには当然工学部に行って車関係のことを勉強しようと思っていました。私が大学に入ったのは1966年のことでした。この年までの私が入学した大学では、工学部では2年生になる時に学科を決めることができました。この頃は自動車による公害が大変ひどく、交通事故による死者も数多くいて、車が悪者にされていた時代でした。それで私も自動車の勉強をするのがいいのかが疑問になりました。疑問になった結果、基礎を勉強しておこうと思って、工学部の中では最も基礎的に思えた応用物理と言う学科を選びました。

物理は大きく言うと、力学と電磁気学と量子力学からなっています。大学4年間はこれを散々勉強しました。大学院の研究室は、当時最も先進的だと考えられていたレーザーを選びました。この関係で私は最初の就職は、つくばにある環境庁の国立公害研究所と言うところに入りました。今、ここは環境省の国立環境研究所に名前を変えています。ここではレーザーを使って遠方の大気汚染を測定するレーザーレーダーという装置を作ることが私の研究テーマでした。この装置を作った後、自分がどんな研究をしていこうかと考えたときに、そういえば小さい時から車が好きだったことと、車が出している排ガスを全く出さないから電気自動車の研究を始めることにしました。それから40年以上が経ちました。

車は今でも好きですね。



レーザーレーダーの写真
建物の屋上のドームの中から、緑のレーザービームが見えている